

# 私たちの「カマキリ観察日記」

牛 島 由美子

「お母さん。先生がね、カマキリの世話をする人はいませんか、と言われたので、僕もらってきたよ」幼稚園のころから虫が大好きで、カブトムシやアゲハチョウなどを育てていた長男が、オオカマキリのたまごを持って帰ってきました。

観察日記をつけるのもいいね。ということになって、この日から、私たちの「カマキリ観察日記」が始まりました。



図1 オオカマキリの卵鞘

4月30日

いつ、たまごから幼虫が出てくるのでしょうか？  
何を食べるのでしょうか？

図書館へ行って、本を借りてきました。

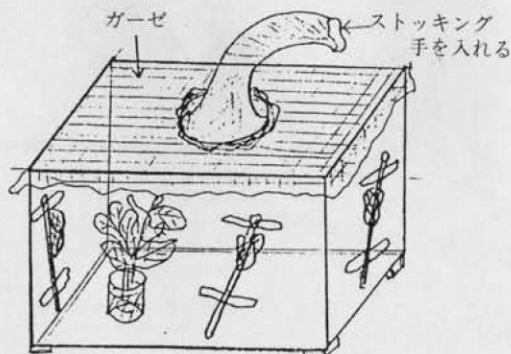
それによると、泡が固まったような、たまごの塊は卵鞘（たまごのかい）というそうです。

もうそろそろ幼虫が出てくる時期のようです。しかも、生きている小さな昆虫、ショウジョウバエやアブラムシなど、しか食べないこと、また、よく共食いをすることが書かれていました。

これはたいへんです。さっそく近くの空き地へ行って、ヨモギに付いているアブラムシを取ってきました。プラスチックのケースの中に、カマキリのたまごの付いた枝をセロテープで止め、アブラムシを入れガーゼとストッキングで作った特製のふたをかぶせました。

5月1日

朝9時30分、幼虫がふ化しはじめました。なん



フィルムケースに水を入れて、アブラムシのついた草を入れる（底に両面テープ）

図2 飼育ケース

てたくさんの幼虫が出てくるのでしょうか。透明なオレンジ色の幼虫が卵鞘の下にたくさんつながって動いています。卵鞘から出てくる時は、まだ薄い膜に包まれています、すぐに膜がやぶれて小さな小さなカマキリになります。

ケースの中は幼虫でいっぱいになりました。幼虫はオレンジから茶色っぽく色が変わりました。入れておいたアブラムシはまだ食べないようです。

5月3日

セロテープのくっつけ方が良くありませんでした。テープと枝の間に幼虫がたくさんくっついてしまったのです。きちんと張りなおしました。

入れておいたアブラムシはもう死んでしまっていました。アブラムシの付いたモミジの枝を入れてやると、とたんに食べ始めました。ふ化してすぐはえさを食べず、2日ほどしてから食べ始めたようです。

5月15日

とってもよくえさを食べるので、すぐに無くなります。かといって近くでは、もうそんなにえさの虫が見つかりません。なんだかとってもかわいそうです。

多くの幼虫をモミジの木の上に逃がしてやりました。アリや他の虫に食べられないか心配です。

この幼虫が大きくなってから見つかるといいな、とたのしみでもあります。

ケースの中では、えさを入れてやっても共食いをしています。30匹ほどになりました。

#### 5月20日

一回り大きくなったのがいました。抜け殻がいくつもモミジの葉から垂れ下がっています。

1回目の脱皮をしたのです。お尻の先が黒っぽくなっています。

これから何回脱皮をするのでしょうか。よく注意して見ようね、と話合いました。

#### 5月22日

ほとんどの幼虫が脱皮をしたようです。えさはたくさん入れておいたのに、あまり減っていません。脱皮をした時はえさを食べないようです。

#### 5月29日

松川の土手へアブラムシを探しにいきました。そのとき小さなハエがいたので、それも取ってきて入れてやりました。それはすぐに食べました。大きなハエやテントウムシも入れてみましたが食べませんでした。

#### 6月2日

また大きくなっていました。2回目の脱皮をしたのです。

#### 6月5日

今日は朝からえさ採りです。お父さんは15匹もハエを捕まえてくれました。大きなハエも捕まえ、全部で50匹も入れてやりましたが、全部食べてしまいました。ときどき共食いをしたのでカマキリの幼虫は15匹になってしまいました。

えさを食べるのを観察しました。カマキリはえさを見つけると、そちらに顔を向け、鎌のような前足を胸の前で構え、腹の端をピンとそらし体を左右に揺り動かします。えさまでの路離を計っているようです。届くところにえさが来るとさっと前足を伸ばしてつかまえすぐにかじりつきます。

一度つかまえてから落としてしまったえさはも

う見向きもしません。

#### 6月11日

夕方、3回目の脱皮です。緑色のカマキリと茶色のカマキリの2色になりました。同じように飼育してきたのにどうして2色できるのでしょうか。

色のかわったものがあるほうが、野外で生き残っていくものが多くなるのかもしれませんが。

脱皮し終わってすぐのカマキリが他のカマキリに食べられてしまいました。8匹になってしまいました。

#### 6月18日—20日

4回目の脱皮をしました。生まれた時の小ささを思うと、びっくりするほど大きくなりました。

#### 6月26日

梅雨になり、なかなかえさが採れません。共食いをしてとうとう4匹になってしまいました。1匹が茶色で3匹が緑です。緑のうちの1匹は足が折れています。

夜、のぞいてみるとカマキリの目が真っ黒でした。昼のうちは緑なのに夜になると目の色が変わるのです。どうしてでしょう。暗い時と明るい時のどちらでもよく見えるように、目の色を変えるのでしょうか。

#### 6月28日—6月30日

1日に1匹ずつ5回目の脱皮をしました。背中に小さなハエが見えています。足の折れているのはまだ脱皮をしません。

雨ばかりでえさが採れないので、実験をすることにしました。小さく切ったハムを糸にくっつけてカマキリの目の前でゆらしてみることにしたのです。糸からハムがおっこちたり、なかなかうまくいきませんでしたが、何回もやっていると、とうとう1匹がハムをつかまえて食べました。生きていることより、えさが動いていることが重要なようです。

共食いをしそうになったのであわてて離れたけれど1匹の触角が食べられてしまいました。1匹ずつ別々のケースで飼うことにしました。

触角の無くなったカマキリは、えさを採るのが

なんだか下手になったような気がします。

### 7月11日

足の折れていたカマキリが脱皮をしました。折れていた足は付け根のところでちぎれてしまいました。

### 7月12日

1匹が6回目の脱皮をしました。またぐんと大きくなりました。

### 7月25日

今日から夏休み。

もう全部が6回目の脱皮をすませています。

4匹に名前を付けてあげました。1番始めに6回目の脱皮をして体も1番大きいのが「大ちゃん」。前足に黒っぽい模様が見えるのが「子ちゃん」。触角をとられた「触ちゃん」。1番小さい「ちびちゃん」。

### 7月31日

朝、7時30分、大ちゃんが最後の脱皮をして成虫になりました。メスです。体の長さは9.5cmもあります。体は緑、はねは一部緑で残りが茶色でした。

夜、8時、ちびちゃんが脱皮を始めていました。しかし、ケースにつかまるのに失敗して下におっこちていたのを、足を持って上のほうへ引っかけてやりました。明日の朝までちゃんと成功しているか心配です。

### 8月1日

朝、ちびちゃんはりっぱな成虫になっていましたが、前ばねが1枚伸びきっていません。ちぎれた足は小さいけれど新しいのがはえていました。オスです。

### 8月3日

残りの2匹も成虫に成りました。触ちゃんも触角が少し伸びました。子ちゃんはケースが小さすぎ、体がまっすぐに伸びきれず曲がってしまいました。触ちゃんはオス、子ちゃんはメスでした。体の色は、幼虫の時緑だったのも茶色だったのも



図3 羽化

みんな同じになりました。

### 8月21日

4匹とも元気です。いままでえさにバッタをやっていたのですが、今日は大きなアブラゼミを入れてみました。こんな大きな、ばたばたとあばれまわるセミでも平気で食べてしまいました。お腹がずいぶんふくらってきました。

### 8月22日

そろそろたまごを産むのではないかと、オスとメスをいっしょにすることにしました。

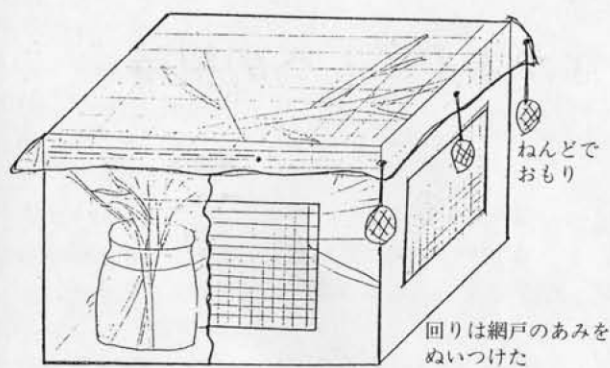
小さなケースだとオスがすぐ食べられてしまうようなので、大きなダンボール箱に網をかけてその中に入れてやりました。お父さんも手伝って、みんなで汗を流しながら作りました。

庭で成虫のカマキリ（メス）を見つけました。5月に逃がしてやったのかもしれないとうれしくなりました。これも、いっしょにダンボールに入れました。これには「野っちゃん」とつけました。野ちゃんは他のカマキリと動きが違います。力強くすばやくえさを捕まえます。今まで自分だけでえさを補ってきたのですから、やっぱり野生のものは違うなと思いました。

### 8月24日

昨日から元気がなかった触ちゃんが死んでしまいました。

大ちゃんとちびちゃんが交尾をしました。ちびちゃんが、大ちゃんを見ながらお腹の先を左右に



のりが入っていたプラスチックの容器に草を入れる。

図4 飼育箱

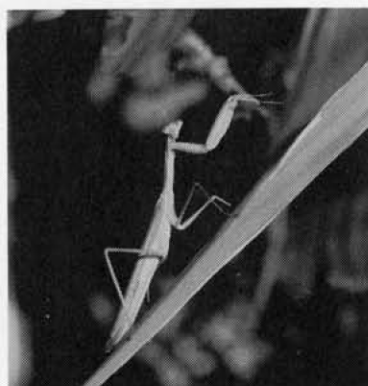


図5 オオカマキリ

ゆらゆら動かしているので変だなと思っていると、大ちゃんの背中に飛び乗ったのです。

今日はかなしくてうれしい日でした。

#### 8月25日

子ちゃんとちびちゃんが交尾しました。

#### 8月27日

子ちゃんがちびちゃんを食べてしまいました。

オスがいなくなり、メスのみ3匹となりました。

#### 8月31日

やった。大ちゃんがたまごをうみました。

午後3時、お腹の先から白いあわをブクブク出しています。尾毛を動かして、まるでたまごを撫でているようです。最初に出した所から少しずつ茶色に変わってきます。今朝、枯れ枝を何本か入れておいてよかった。全身の力をふりしぼって大きな卵鞘を枝に1つ、壁に少し小さなものを2つと、3つものすばらしいオオカマキリの卵鞘を作り出してくれました。

明日から二学期が始まるという日、家族みんなが待ちに待っていたたまごを産みました。4月の末から今日まで育ててきたかいがあったというものです。

1つの卵鞘から何百もの幼虫が現れ、最後には4匹が成虫となったものの、触角が切れたもの、足がとれたもの、体が曲がってしまったものになってしまい、まともに成虫に成長したものはわず

か1匹でした。

たいへんだったのは、なんといってもえさの確保でした。梅雨時には外に捕りに行けず、家の中に入ってきた数少ないハエを追い回しました。晴れた日にまとめて採ってきたバツタなどを生かしておくのもめんどうなことでした。

反省することは多々ありますが、まず、羽化の時充分な広さを与えるということです。子ちゃんには本当にすまないことをしたと思います。それに、幼虫をもっと早くから別々にして、共食いを少なくするというです。最初の頃はたくさんいるのだからと安易な気持ちもあって放っておいたのです。数が減り始めた頃、長男が「お母さん、成虫に何匹になれるかな」と言った時があります。学校から帰ってくると、朝よりもぐっと数が減っていた、それが毎日のようにくりかえされたのです。共食いという生きるうえでの手段を子供はどう感じたのでしょうか。

成虫になってからは、自分の体よりも大きいセミをものともせずに食べたり、メスがオスを食べる事も知りました。野生の成虫を見つけた時、野生の力強さ、すばやさには驚かされました。

生き物の飼育は、どんな種類でもそれぞれに苦労があります。かなしいこともあります。しかし、たのしいこと、わくわくすることもたくさんあります。そして、生きるということについていろいろと考えさせられるのです。

9月中旬、大ちゃんの産んだ卵鞘を庭のもみじの木に付けておきました。

(うしじま ゆみこ 富山市牛島町)